

ほほえみ

第49号(平成28年12月)
発行：小山市教育委員会



平成27年度人権に関する作文で入賞した小学生の作品を紹介したいと思います。

「お父さん」

小山市立穂積小学校4年(現5年) もりた 森田 そうし 創心

「創心、今日の夕飯、何がいい。」
お父さんがぼくに聞きました。ぼくは、
「チャーハン。」
と答えました。

ぼくの両親は、共働きです。そして、しょく業も同じです。

「忙しい。忙しい。つかれた。」

がお母さんの口ぐせです。この言葉を聞くと、ぼくとお父さんは必ず顔を見合わせ、「始まったね。お母さんの口ぐせが。」と心で会話し、ほほ笑みます。

「忙しい。忙しい。」が口ぐせのお母さんは、仕事が特に忙しくなってくると、土曜日や日曜日の夕方、しょく場に仕事をしに出かけてしまいます。そんな時は、決まってお父さんが台所に立ちます。たまごとシャキシャキのレタスがたっぷり入っていて、かくし味にニンニクを使うお父さんのチャーハンは、どんな一流シェフが作るチャーハンよりおいしいです。

お父さんは、料理だけでなく、せんとく物をこんだり、食事の後片付けもやったりします。

授業参観もそうです。お母さんは仕事で、授業参観にあまり来ることができません。だから、ぼくの授業参観は、お父さんかおばあちゃんが来てくれます。きれいでやさしそうなお母さんたちの間に、大きなぼくのお父さんが立っています。ぼくは、お父さんが立っているのがはずかしくて、いやだと思った時もありました。

授業参観があった日の夜、ぼくのお父さんに、お母さんたちの間に入って立っているのがいやじゃないか聞いてみました。

「ちっともいやじゃないよ。」

お父さんは、きっぱりと言いました。そして、

「お母さんが、女だから授業参観に行かなければならないという決まりはないし、そういう考えはよくないと思うよ。家の仕事もそうだよ。男だから家の仕事をやらなくていい

という考えも、よくないよね。お父さんは、創心とお母さんのことを考えて、できることをやるよ。」

と答えました。

その時からぼくは、お父さんが授業参観に来てくれても、「はずかしい。」と思ったことはありません。それどころか、お父さんがもっともって大好きになりました。

昔にくらべれば、男女の差別は、かなり少なくなったと思いますが、まだ、残っている部分もあると思います。

「男なんだからがまんしなさい。」「女なんだからお手伝いしなさい。」など、よく聞きます。男でも女でも、がまんできないことはたくさんあります。男だから家の仕事をやらなくていいということもありません。「男だから、女だから。」という考えはいけないと思います。

毎日の生活の中で、かたよった考え方をなくし、できる人ができることをやり、助け合うことによって、だれもが気持ちよくすごせるのだと思います。その人らしさが出るのだと思います。

ぼくも、お父さんみたいに、広い心をもった人になりたいです。そして、お父さん特せいのチャーハンの味付けを覚えたいです。

平成27年度人権に関する文集「あすへのびる」第35集(平成28年2月 栃木県教育委員会 発行)から

※この作文を読んでどのようなことを感じましたか?ご家族で話し合ってみるのもいいですね。

「男性とは・・・」、「女性とは・・・」という性別に基づくイメージにとらわれていて、知らず知らずのうちに相手に役割を押し付けていたり、求めてしまったりしている時はありませんか。これをジェンダー(社会的性別)と言います。大切なのは、「その人らしさ」。男女の役割分担やイメージについて、「どうしてかな」と疑問をもつことからはじめ、そこに潜むジェンダーを見つけてみましょう!



小山市人権関連ホームページ【小山人権の扉】
もご覧になってください。
<http://www.oyama-tcg.ed.jp/~jinken/>

今回の『ほほえみ』はいかがでしたか?
皆様のご感想・ご意見等を、ぜひお聞かせください。
e-mail:d-gakusyu@city.oyama.tochigi.jp